

# はぐるま

平成29年9月発行

93号

## 目次

- ・協和中央病院組織体制について —2
- ・歯科・歯科口腔外科紹介 —3
- ・下肢静脈瘤について —4
- ・看護部だより —5
- ・協和南病院紹介 —6
- ・恒徳会新理事長ごあいさつ —7
- ・恒徳会だより —7
- ・外来診察担当医表／編集後記 —8

## 歯科・歯科口腔外科

専門性の高い治療を  
よりよい環境で  
受診していただくための  
新しい診察室が  
完成しました!



仙名医師

串田医師

森医師  
(自治医科大学 歯科口腔  
外科学講座 主任教授)

大田原医師

岡田医師



医療法人 恒貴会 理事長  
中原 昇

協和中央病院の新しい病院長に黒川 徳一（くろかわ のりかず）先生が任命されました。

これまで2代目の理事長が退任された後、中原 昇が医療法人恒貴会理事長と協和中央病院院長を兼任しておりました。私も今年の6月で66歳になりましたので、これを機に院長職を辞して新病院長に引き継ぐことといたしました。理事会で承認され、平成29年6月1日付で黒川病院長の誕生となりました。

理事長も病院長も同じように聞こえますが、少々立場に違いがあります。病院長は自分の施設（協和中央病院）の管理者として、病院で起こったことすべてに対し全責任を持つことになります。したがって病院、施設をどういう方針で運営していくかは病院長、施設長の考え方や方針が大きくかわります。

一方理事長は、協和中央病院、協和南病院、協和ヘルシーセンター、大和クリニック、愛美園を有する医療法人恒貴会の開設者として運営を円滑に行い、医療法人の経営に責任を持つことにあります。それぞれの施設の院長、施設長は医療法人の理事も兼ねておりますので、皆で協力して各施設を盛り上げていくことになります。

地域の患者様に対しての医療サービスの提供といった面からは今までの各施設の方針と変わりはありませんので、表向きには何ら変わった点はございません。

医療法人恒貴会の人事を新たにして、これからもより良い医療サービスの提供に努めてまいりますので、皆様方にもご協力をいただければ幸いと願っております。

協和中央病院の病院長が交代しました。



協和中央病院 院長  
黒川 徳一

6月1日より協和中央病院院長に就任しました黒川です。これからどんな病院にしてゆきたいのか、希望も含めてお話をさせていただきます。

“相手の立場に立つ”の基本理念のもと、県西地区の二次救急医療に貢献できる病院を、引き続き目指してまいります。現状を鑑み、職員同士、実践してゆきたいことは3つあります。

一つ、明るく接する。患者様やご家族のご依頼に明るく元気に対応できる病院にしましょう。文字どおり、病院のホスピタリティの向上です。二つ、救急の外来・入院を頑張ってください。たくさん受け入れましょう。お陰様で昨年1年間は約1750件の救急車搬送受入れができましたが、それでも地域全体の1/4ほどに留まる現実があります。三つ、主体的に行動する（わたしがやる）。患者様やご家族のために、一人一人が今の自分にできることを考え、リーダーシップを発揮してください。コミュニケーションを密に取りながら、迅速な行動につなげていきましょう。

さて、病院の設備面では、平成28年2月より3テスラのMRIを導入、急性期の脳梗塞診断・治療等に役立てております。2016年はtPA（超急性期血栓溶解剤）使用例が16件にまで増加できました。MRI検査は脊椎の急性期圧迫骨折や胆石症などの診断にも役立っており、連携する医療機関・施設などから検査・読影ご依頼も積極的にお願いしたいと存じます。ぜひ、ご連絡いただけますようお願い申し上げます。

最後に、様々な形で、病院をより良くする努力をさせていただきます。今後とも皆様の病院として職員共々成長できますように、ご指導ご協力を心からお願い申し上げます。

協 和 中 央 病 院



統括副院長  
診療部長  
麻酔科部長  
樋口 純

消化器外科の佐藤先生の後を継いで6月より統括副院長を任せられた麻酔科部長を兼任している樋口です。前任の佐藤先生が、病院のために素晴らしい仕事を行ってこられましたので、私など足下にも及びませんが、これからも患者様に満足のできる医療を継続して提供できるよう努力していきたくと思います。

麻酔に関しては、昨年度私の出身大学である獨協医科大学病院の麻酔科医が8人も退職し、手術部運営に難渋し、急遽応援要請を受けたため、本年の4月

より毎週木曜日にお手伝いに行っている状況です。また自治医科大学でも麻酔科医の不足により手術部を運営していくのに難渋している話をよく聞きます。近隣の病院においても麻酔科が常時いる病院は当院以外にはなく、さらに幸せなことに当院には麻酔専門医が2人も常勤しています。これからは2人体制で365日昼夜問わず、今までと同様に予定手術や緊急手術に対応していく所存です。



副院長  
脳神経外科部長  
長 弘之

6月より副院長兼脳神経外科部長に就任いたしました。私が当院に勤務して13年、医師になってからは30年以上になります。その間の医療の進歩は目覚ましく、脳動脈瘤に対するカテーテル治療や、かつては有効な治療法がなかった脳梗塞も、発症早期であれば血栓溶解療法により麻痺や言語障害が数時間で改善するということが可能になってきています。しかしどんなに医療技術が進歩しても、最も大切なのは患者さんとの信頼関係だと思います。医療というのは常に不確実なものであり、どんな名医でも100%大丈夫、ということはありません。特に脳疾患の場合、最善の治療をしても後遺症が残ってしまう患者さんもいらっしゃいます。患者さんの人生観や生活環境にも配慮しつつ、退院後の生活にも寄り添っていく必要があります。来年秋には筑西市に新中核病院がオープンしますが、脳外科はできないようです。今後も筑西・桜川地区の脳疾患診療の中心として、地域の皆様のお役に立てるよう努力していきたくと考えております。

# 歯科 歯科口腔外科紹介



協和中央病院  
歯科医長  
串田 淳子

## 地域の皆様に信頼される 診療科を目指して

～健康長寿は口腔から～

平成29年6月19日、歯科口腔外科外来がリニューアルオープンしました。開設者の久野恒一先生が病院の中での歯科の必要性を感じてスタートしてから32年目のことです。当初は歯科ユニット1台、非常勤歯科医師1名、歯科衛生士1名の体制で主に協和中央病院グループ内の入所者や職員の治療を行っていました。平成5年からは常勤医2名となりますが、次第に増えてきた口腔外科のニーズに対応するため、平成16年、自治医科大学のご支援により歯科口腔外科が開設されました。当時は主に開業医の先生では難しい親知らずの抜歯や顎関節症、交通外傷による顎顔面骨折、有病者の一般歯科治療などを中心に診療してきました。外来数、入院手術件数も増加していき、平成22年6月には地域歯科支援病院の施設基準取得、平成23年10月には日本口腔外科学会関連研修施設に認定されるに至りました。

医療界における歯科の立ち位置もこの十数年ほどで大きく変わってきました。入院患者様への口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防につながり、早期離床の手助けになるといった研究結果が広く周知され、医療現場では口腔ケアが常識となりました。さらに、心臓外科や癌の手術前後に口腔ケアをしっかりとすることがより良い予後となることから、平成24年には周術期口腔管理が保険導入され、当院患者様だけではなく他病院の患者様の口腔管理にも関わるようになりました。

平成26年8月に自治医科大学歯科口腔外科学講座主任教授として森良之先生が就任され、平成27年4月からは念願であった専門外来が当科でも開始となりました。神部教授の外来では前癌病変となる粘膜疾患や近年非常に増えている口腔乾燥症や味覚障害の患者様を、野口准教授の外来ではインプラント難症例の患者様を主に診察していただいております。そして主任教授の森先生には、判断の難しいすべての症例を統括し、治療のゴールへの道筋をつけていただいております。市中病院で大学病院レベルの専門性の高い診察を受けられるということは患者様にとって素晴らしいことであり、私たちスタッフにとっても大変貴重な勉強の機会となっております。

そして専門性の高い治療をよりよい環境で受診していただくために、外来の改修拡張工事が今年4月に着工し、6月19日、新しい外来が完成しました。歯科ユニットは6台を新設し口腔外バキュームも全台に導入しました。各ユニットには本院の電子カルテとモニターが備えられ、患者様の検査データや画像データを瞬時に確認共有することができます。また、パーテーションを高くしてプライバシーに配慮し、外来手術室やカンファレンス室も完備しております。白と白木を基調とした温かみのある内装になった外来は、医療安全と感染対策を究めた安全安心の歯科医療を提供するのに最適な診察室となっております。

超高齢化社会を迎え、持病を抱えながらも人生をより楽しむ、健康長寿をめざすには口腔管理がいかに大切であるか連日マスコミに取り上げられております。私たちは地域の皆様と大学病院の間にとってより高度な口腔外科的治療を提供するとともに、持病や障害のある方々にもよりレベルの高い一般歯科治療を提供すべく努力してまいります。そして、将来的には口から食べるための嚥下の支援にも関わっていただけると考えております。今後も、地域の皆様に信頼される診療科を目指すべく、中原理事長、黒川新院長の下、一丸となって精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



神部医師(自治医科大学 歯科口腔外科学講座 教授/右)



外科・消化器科から

# 協和中央病院での 下肢静脈瘤治療について



協和中央病院  
外科  
田中 元樹

## • 下肢静脈瘤とは

心臓から動脈を通過して下肢に流れた血液が心臓に戻れずに下肢の静脈に溜まり、拡張してコブ(瘤)をつくる病気です。良性の疾患であり、命の危険はありませんが不可逆的であり、治療をしない限り良くなることはなく、様々な症状により生活の質を低下させます。

## • 原因

長時間の立ち仕事などにより静脈の逆流防止弁が破壊され、血液がうっ滞することです。その他に妊娠、出産、家族歴、高齢、女性などがリスクとして挙げられます。

## • 症状

下肢のむくみ、夕方に強い下肢の倦怠感、疼痛、こむら返りなどがあり、そのまま放置しておくとう瘍ができ、皮膚の変色を招くことがあります。しかし、足の症状が全部静脈瘤からくるものとは限りません。静脈瘤が多い50～60歳の方は脊柱管狭窄症や変形性膝関節症などの整形外科的な疾患であることも多く、診察のうえ鑑別が必要です。

## • 診断

太腿の付け根から分枝している大伏在静脈か膝の裏から分枝している小伏在静脈が主な原因血管であることが多く、超音波検査でこの二つの血管の逆流や拡張を調べることによって診断します。さらに視診によって、伏在型、側枝型、網目状、蜘蛛の巣状の4つのタイプに分けることができます。一般に症状があり、手術が必要になるのは拡張の強い伏在型のみであり、他の3種類はあまり心配ありません。

## • 治療

症状が軽度の場合は弾性ストッキングの着用や、血管内に薬剤を入れて血流をなくす硬化療法があります。伏在型の静脈瘤の場合は原因となる血管

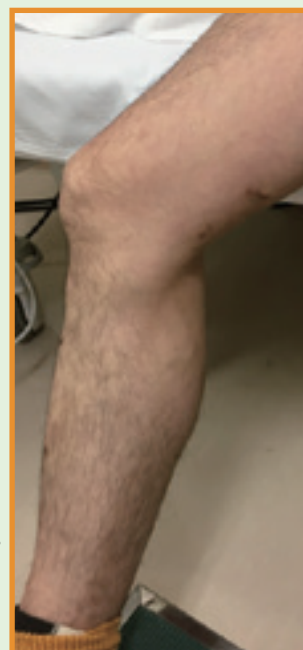
を抜去するストリッピング手術、レーザーにて血管を焼灼する血管内手術、拡張した血管を部分的に切除する瘤切除などがあります。当院では再発率が低く、一番確実なストリッピング手術と瘤切除を併用して行っております。手術は局所麻酔で行い、約1時間半程度で、1泊2日で退院可能です。創部も小さく術後も目立ちません(写真参照)。

## • 最後に

静脈瘤は見た目の派手さと自覚症状が一致しないことも特徴の一つです。かなり大きな瘤でも症状のない方もいれば、見た目が軽度でも症状が重い方もいます。症状がある方はもちろんのこと、症状がなくても見た目が気になる方もご希望があれば治療の対象になります。上記症状のある方や診察希望の方はお気軽に消化器科外来までご相談ください。



◀ 術前



▶ 術後2か月

右大伏在静脈ストリッピング、瘤切除術



協和中央病院  
南2階病棟  
看護係長

**飯村 真由美**

## 新人リフレッシュ研修『なごみ会』

入職して3カ月、毎日一生懸命頑張っている新人看護職員に心身のリフレッシュと、同期や看護師とのコミュニケーションを図る目的で、平成29年6月28日(水)リフレッシュ研修「なごみ会」を開催しました。例年軽食後、パン作りやアロマ石鹸作りなど物作りを行っております。

今年度は、上野のパンダ誕生にあやかり、パンダの飾り巻き寿司作りを『ハピマキつくば飾り巻き寿司教室：坂口美有紀先生』をお招きし行いました。みんなで協力しながら、ご飯の量を図ったり、巻き簀で巻いたり、どの工程も話し声や笑顔の絶えないとても楽しい時間でした。出来上がった巻き寿司は、上野のパンダに負けないほどの色々な表情の可愛いパンダでした。

これから仕事で失敗したり、落ち込んだりするかもしれませんが、そんな時は今日の研修を思い出し、同期や先輩看護師にアドバイスをもらいながら、みんなで力を合わせ頑張っていたきたいと思います。



## 看護の日

協和中央病院  
新館3階病棟  
看護副係長  
**稲葉 未希**



5月12日は「看護の日」です。

看護の心・ケアの心・助け合いの心を育むきっかけになるように「看護の日」が制定されました。

当病院では、「まちの保健室」として地域の方々に気軽に看護に触れていただけるように健康チェックを行っております。今年もカスミ・協和店様にご協力をいただき5月10日に開催しました。身体測定・血圧測定・体脂肪測定・ストレスチェック・血管年齢測定を行い、買い物に来られた方など約70人の地域の皆様に参加していただきました。毎年参加して下さる方、いつも来ようと思っていたがやっと参加できたとおっしゃって下さる方など、皆様が楽しみにしていただいていることを感じました。

私達は地域の方々とふれあい元気をいただきました。その元気を地域の皆様に返せるよう、満足していただける医療の提供を心がけ日々精進していきたくと思っています。



嚥下内視鏡検査



嚥下造影検査

## 入院患者様における嚥下障害への取り組み



協和中央病院  
南2階病棟師長  
摂食・嚥下障害  
看護認定看護師  
**小河原 幸子**

当院における嚥下障害の患者様の特徴としては、脳血管疾患と加齢、肺炎を繰り返す患者様の嚥下障害が主な疾患になります。加齢による嚥下機能の低下は、予防することは困難であり、訓練よりも今の嚥下機能に合った食事を提供することに重点を置くことが重要です。そのためには適切に嚥下を評価できる検査が必要となります。

そこで、入院時に、ここ2～3年の飲み込みの様子について質問紙を使用し、嚥下障害の疑いがあるのかを確認し、疑いの高い患者様に対しては、主治医と相談して嚥下機能検査を行うことがあります。

高齢になるにつれ、のどの筋力も低下し、喉ぼとけも下がってきます。喉ぼとけが下がって食物を飲み込むときに十分に上がらないと、食道の入り口が十分に開かず、「ごっくん」したいと思っても、食べ物の一部が食道を通りきらずに喉に残ってしまうことがあります。それを吸い込むと、気管に入り、誤嚥を起こすリスクが高まります。このような状態は、目に見えないことで患者様も誤嚥の危険を理解しにくいので、十分に嚥下障害を理解し、窒息、誤嚥の危険を予防するための行動をとっていただくために、嚥下機能検査を実施し、その後の食支援に役立てていきたくと思っています。

高年齢になるにつれ、のどの筋力も低下し、喉ぼとけも下がってきます。喉ぼとけが下がって食物を飲み込むときに十分に上がらないと、食道の入り口が十分に開かず、「ごっくん」したいと思っても、食べ物の一部が食道を通りきらずに喉に残ってしまうことがあります。それを吸い込むと、気管に入り、誤嚥を起こすリスクが高まります。このような状態は、目に見えないことで患者様も誤嚥の危険を理解しにくいので、十分に嚥下障害を理解し、窒息、誤嚥の危険を予防するための行動をとっていただくために、嚥下機能検査を実施し、その後の食支援に役立てていきたくと思っています。

療養  
病床

# こんにちは 協和南病院です



高齢化社会を迎え、いったん病にかかると長期にわたり治療や介護を必要とする老人の方々が増加しているのが現状です。当院はこのような社会の要請に応えようと、主に急性期での治療を終え、症状が安定期にある高齢者で長期にわたり治療や介護を必要とする方々に安心して療養生活を送っていただくための病院です。明るくて清潔で広々とした室内で患者様に納得していただける治療・介護を目指しております。

病気が長期化し慢性期の医療的処置を必要とする脊髄損傷等の重度の障害者・重度の意識障害者・神経難病等の患者様の入院も可能ですのでお気軽にご相談ください。



治療経過説明



食事介助



作業療法



多職種協働で、療養生活を支援します!!



服薬指導



歩行訓練



シャワー浴

在宅復帰率  
50%以上

入院のお問い合わせ、介護等のご相談はお気軽にご相談ください。

連絡先：0296-57-5133 医療福祉支援相談室 大関・塚田  
E-mail:minami@kokikai.com URL:www.kokikai.com

## ◆開設許可年月日

昭和63年2月16日

## ◆許可病床数

109床

## ◆協和南病院施設基準

- ・療養病棟入院基本料1
- ・療養病棟環境加算1・2
- ・薬剤管理指導料
- ・在宅復帰強化加算
- ・脳血管疾患リハビリテーション(Ⅲ)
- ・運動器リハビリテーション(Ⅲ)

## ◆協和南病院のスタッフ

- ・医師……………2名
- ・非常勤医師……………6名
- ・看護師……………17名
- ・准看護師……………14名
- ・介護福祉士……………17名
- ・介護士……………9名
- ・薬剤師……………2名
- ・管理栄養士……………1名
- ・作業療法士……………1名
- ・理学療法士……………1名
- ・放射線技師……………1名
- ・歯科衛生士……………1名
- ・医療ソーシャルワーカー……………2名
- ・事務員……………7名

## 恒徳会、恒貴会グループの 発展に貢献できるよう精進 してまいります



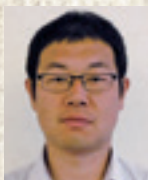
社会福祉法人 恒徳会  
理事長  
久野 貴俊

この度恒徳会の理事長に就任させていただくこととなりました。私の父であり、恒貴会、恒徳会の創設者である故久野恒一が平成14年10月に他界致しましてから14年が経過致しました。その間、故三宅和夫先生、村田桃代前理事長と長く理事長としてご尽力賜りました。恒徳会が今日まで地域に根ざした運営ができましたのも、理事長にあられた先生方のお力があつたればこそと存じます。

社会福祉法人制度改革もあり、法人の在り方も問われております。より透明性の高くわかりやすい法人の運営を心掛けてまいりたいと存じます。また今後はさらに地域への貢献ということが意識されてゆくものと感じております。これまで職員一同築き上げてまいりました地域の皆様との絆を財産とし、それ以上にお返しできるよう精進してまいりたいと存じます。

ご利用者様、ご家族様に心地よくご利用いただくこと、更には応対させていただく職員が心地よく質の向上を目指し働けること。皆様に親しまれ選ばれる法人となりますよう環境の整備に努めてゆく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 恒幸園



恒幸園  
総務係長  
渡辺 昌彦

## 夏の風物詩

## 合同納涼祭

第34回合同納涼祭（恒幸園、すみれ園、菫授園）が、天候にも恵まれ、7月22日（土）盛大に開催することができました。

筑西市長の須藤 茂様をはじめ、ご家族、地域の方々、ボランティアの皆様がたくさんのご参加をいただき、心より感謝申し上げます。

芸人「御祭きよし」さんの、ものまね早着替えショーは、松崎しげるなど約20曲をご披露いただき、笑い拍手で大いにお祭り気分を盛り上げてくれました。

その後、ご利用者によるカラオケや、新治女性会の皆さんと大きな輪になって協和町音頭と八木節を踊り、最後の“ナイアガラ”の花火は、夏の夜のひとときの楽しい思い出となりました。来年、またお逢いしましょう。



# 外来診療担当医表 平成29年9月

診療科		月	火	水	木	金	土	
脳外科	午前	1	中原	中原	中原	中原	中原	
		2	五味	長	黒川	手塚	長	黒川
外科	午前	1	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	石川
		2	石川	石川		田中	石川	田中
●水の外科外来は予約のみとさせていただきますのでご了承ください。								
内科	午前	1	玉野	玉野	玉野	川越	川越	長山
			内科	内科	内科	内科	内科	内科
		2	川越	大内	木村	横町	磯田	大内
			内科	内科	内科	循環器・内科	内科	内科
		3	福島	磯田	阿部田	福島	武井	(予約)新保
	内科		内科	内科	内科	内分泌内科(糖尿病)	循環器内科	
	午後(予約のみ)	1	阿治部	村上			小笠原	
			消化器・内科	内分泌内科(糖尿病)			神経内科	
	2	大場						
		循環器内科						
●内科外来の午後は予約のみとさせていただきますのでご了承ください。								
専門外来	午後	村田	加藤					
	睡眠呼吸障害(予約のみ)		漢方専門外来					
小児科	午前	刈屋	長尾	長尾	佐藤	黒澤	自治医大交代制	
	午後	刈屋	長尾		佐藤	黒澤		
整形外科	午前	藤田			藤田	萩原	第1、3、4、5 木村	
	●月・木の整形外科は予約と紹介患者様のみ、金(第1、3、5)は大学診療のため時間前に受付終了となります。土(第2)は休診となります。予約外の患者様はお待ちいただきますのでご了承ください。							
痛みの外来	午前			佐藤				
皮膚科	午前・午後		金子			山内		
泌尿器科	午前		別納		神原		幸	
●土曜日の受付は10:30までとさせていただきます。								
眼科	午前・午後		高山	高山 午前のみ	山下・新井 交代制	高山 午後は予約のみ		
歯科 歯科口腔外科	午前・午後 (土は午前のみ)	1	串田	串田	串田	岡田	串田	
		2	大田原	大田原	大谷津	大田原	大田原	
		3			杉浦 午前のみ	渡辺	仙名	
専門外来	午前	第2、4 神部 第3 野口				第2、4 森		

※受付時間《午前の部》 月・火・木・金 (7:30~11:30) 診療開始 9:00 《午後の部》 皮膚科・眼科 (13:30~15:30) 診療開始 14:00  
 水・土 (7:30~11:00) 診療開始 9:00 \*眼科(木) (13:00~15:00) 診療開始 13:30  
 歯科・歯科口腔外科 (8:30~11:00) 診療開始 9:00 内科 (13:30~16:30) 診療開始 14:00  
 ※水・土の午後 及び 日・祭日は、休診です。 小児科 (14:30~16:30) 診療開始 15:00  
 ※診察の際は、保険証をご提出ください。 歯科・歯科口腔外科 (13:30~16:00) 診療開始 14:00 水の午後も診療します。  
 ※受付時間外及び休診日に救急診療を希望される方は、あらかじめ電話でお問い合わせください。

## 安心が地域に根ざす 医療法人恒貴会・社会福祉法人恒徳会

**協和中央病院**  
 ・脳神経外科・外科・消化器科・内科・漢方内科  
 ・呼吸器科・ペインクリニック内科・整形外科  
 ・小児科・放射線科・皮膚科・泌尿器科  
 ・リハビリテーション科・麻酔科・眼科  
 ・歯科・歯科口腔外科  
 茨城県筑西市門井1676番地1  
 電話0296-57-6131(代)  
 E-mail:kyowa@kokikai.com

療養病床  
**協和南病院**  
 茨城県筑西市門井1674番地1  
 電話0296-57-5133(代)  
 E-mail:minami@kokikai.com

介護老人保健施設  
**協和ヘルシーセンター**  
 茨城県筑西市門井1669番地2  
 電話0296-57-6030(代)  
 E-mail:healthy@kokikai.com

**大和クリニック**  
 茨城県桜川市大國玉2513番地12  
 電話0296-58-7788(代)  
 E-mail:yamato@kokikai.com

訪問看護ステーション  
**愛美園**  
 茨城県桜川市大國玉2513番地12  
 電話0296-20-6780(代)  
 E-mail:aibien@kokikai.com



障害者支援施設  
**すみれ園**  
 茨城県筑西市門井1677番地21  
 電話0296-57-5125(代)  
 E-mail:sumireen@kohtokukai.jp

障害者支援施設  
**堇 授園**  
 茨城県筑西市門井1687番地1  
 電話0296-57-3400(代)  
 E-mail:kinjyuen@kohtokukai.jp

障害者支援施設  
**桃 香園**  
 茨城県桜川市大國玉2513番地10  
 電話0296-58-7870(代)  
 E-mail:tohkaen@kohtokukai.jp

新型特別養護老人ホーム  
**恒 幸園**  
 茨城県筑西市向川澄98番地1  
 電話0296-57-7268(代)  
 E-mail:koukouen@kohtokukai.jp



**編集後記**  
 いつまでも暑さが去りやらぬ毎日ですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。協和中央病院グループも、中原理事長、黒川新院長の下、気持ちを新たにより良い地域への貢献を模索しております。「はぐるま」もこれまで以上に地域の皆様へ意義ある情報を発信できるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。皆様の秋が実り多いものになるよう、願っております。(高松)

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。  
 ●発行責任者／中原昇  
 ●編集委員／相澤明美 飯泉茂徳 上野敏子 堤谷博之 杉田恵美子 野村正浩 高松紀平/猪野貴之 廣瀬俊樹  
 〒309-1195 茨城県筑西市門井1676番地1 TEL.0296-57-6131